

■**榎林宗建** 医家。来日したシーボルトが市中で治療できるようにし、日本における牛痘の輸入の始祖となった。

ならばやしそうけん
一九膝栗毛始1802＝

肥前国長崎で、代々榎林流外科の名声を持つ榎林家の4世栄哲の次男に生まれる。名は高房。宗建は通称。

前年に佐賀藩主鍋島治茂の侍医となって、長崎永代居住を許され、詩文を好み、古賀精里・頼春水・太田南畝・亀井南溟ら碩学とも交流、医術とともに文筆でも名声を博す父のもとに育ち、

ゴッホの拿捕 1811＝ 9歳：

水野忠成老中 1818＝16歳：

・・・・・・ 1820＝18歳：

シーボルト来日・ 1823＝21歳： 長崎に来日したシーボルトが市中で病人を治療しようとするも国禁で叶わずにいたところ、
シーボルト鳴滝塾 1824＝22歳： 兄栄建とともに、*町年寄高島作兵衛と秋帆に働きかけ、榎林家でのシーボルトによる治療が実現。初の外国人医師による日本人の治療となるとともに、全国からシーボルトに入門する者が輩出する契機となる。
蘭書を読み、出島に往来して、新しい医学を学び、
日本外史・・ 1827＝25歳： 父の後を受けて、*佐賀藩主の侍医となる。
シーボルト事件・ 1828＝26歳： シーボルト事件後は、彼に代って、居留オランダ人の治療に努めて信頼され、
シーボルト追放・ 1829＝27歳：

大塩平八郎乱 1837＝35歳：
適塾オープン・ 1838＝36歳：

天保改革弾圧 1842＝40歳： 仕官を嫌う兄栄建から家督を譲られ、兄は京都に移住して蘭方医となり、名声を博して行く。

阿部正弘首座 1845＝43歳：
孝明天皇・・ 1846＝44歳： 私塾{大成館}を開く。
・・・・・・ 1847＝45歳： 開明的な藩主から、天然痘に対処すべく、オランダから痘苗を輸入するように命じられ、商館長に依頼、
・・・・・・ 1848＝46歳： *モーニックにより、通常の伝来方法たる痘漿がもたらされ、長崎通詞の子に接種してもらっても善感に至らず、その原因をモーニックと話し合い、輸送期間が長すぎて腐敗したためと結論、すでに実施されていた人痘法の経験から、腐りやすい痘漿でなく痘痂で良いのではと、わが国種痘史上きわめて重要な提案。
北斎没・・ 1849＝47歳： *モーニックも賛同して、痘痂がもたらされ、自らの三男と通詞の子ら3人に接種してもらったところ、三男のみ善感、そこで三男の発疹から得た痘漿を通詞の子らにも種痘したところ善感、日本初の牛痘法による種痘が始まる。佐賀藩医の子らに続いて、藩主の子にも接種して成功、藩主から称せられて、長崎に戻る。
佐賀藩では早速藩費による引痘方医師派遣による藩内普及活動を開始、さらに痘漿は江戸にもたらされ、伊東玄朴が自らの娘に接種。以後、分苗により、京都・大坂はじめ、*牛痘法は全国に急速に展開して行くが、その際、自ら解説した小冊子を一冊ずつ贈ることも忘れず、
万次郎帰国・ 1852＝50歳： 病没した。